

ライフスタイル

026-236-3143 kurashi@shinmai.co.jp

この家の元住人は、妻に先立たれた後、1人暮らしていた87歳の男性。第2次世界大戦中に東京から信州に一家で疎開し、ここに家を構えたという。

片付けに立ち会った次女(46)は、「お父さんが見つけた。その後、住む人はなく空き家に。そのままにしておくわけにもいかず『夏に初盆を済ませたのを区切りに、実家の処分を決めた』と次女は話す。

遺品整理を業者に依頼したのは、男性の娘が2人とも離れて暮らしており、片付けに通うのが大変なためだ。写真など思い出の品

の空き家で、故人の家財を整理する「遺品整理」業者による作業が始まった。作業員たちが、現金や写真、手帳など思い出の品を遺族に確認しながら、テキパキと片付けていく。処分品として袋やコンテナに詰められていくのは、衣類や本、食器などこまごまとした生活の痕跡だ。

「日記が出てきましたが、取つておきますか?」「小銭は籠に入っていますね」。

9月下旬、南信の木造2階建ての空き家で、故人の家財を整理す

る

空き家 20万戸時代

第2部 相続と住まいの終活③

だけ取つておき、「ゆくゆくは解体して(不動産業者を通して)売つもりです」と次女は少し寂しそうな表情で話した。

空き家の遺品整理を請け負つた

「片付けオンライン」(松本市)

によると今回、作業は2日間で、8LDKの家から2ントラック4~5台分の家財を搬出。処分料なども含めて料金は計65万円だったという。

同社の長島拓也代表(34)は「遺品整理は、ただの不要品回収ではない」と話す。大事なのは「残すべき物と処分する物をしっかりと区別すること」。現金や通帳類は必ず取つておくが、手紙や人形、切

手帳など思い出の品は人によって異なるため、事前に遺族にヒアリング。家財は乱雑に扱わないなど「供養の気持ちをもつて臨んでい

る」。

「実家の片付け」業者に外注増加

遺品を整理 供養の心で

高齢1人暮らしの世帯が増えている。総務省「国勢調査」によると、65歳以上人口に占める1人暮らしの割合は、2000年は男性8・0%、女性17・9%だったが、20年は男性15・0%、女性22・1%に。総数は約671万7千人で、65歳以上の約5人に1人が1人暮らしとなっている。国立社会保障

・人口問題研究所の推計で、この20年は男性15・0%、女性22・1%に。総数は約671万7千人で、65歳以上の約5人に1人が1人暮らしとなっている。国立社会保障

下。核家族化に伴い、かつて子や親族が行っていた「実家の片付け」も、業者に外注するケースが増えている。

11年に発足した一般財団法人「誰にもみどられずに1人で亡くなる『孤立死』で、遺品整理を依頼されるケースも多い」と同協会常務理事の長谷川正芳さん(38)は話す。

ただ、需要が増える一方で、不要品を山に不法投棄する、遺品を無断でネットオークションで売り出すなどの悪質業者も後を絶たないという。遠方の遺族だと、時間の余裕がなく、鍵を業者に郵送してすべて任せられる場合もあるが、長谷川さんは「基本的に立ちはだつてほしい」と呼びかけている。

「次回は11月21日に掲載します」



貴重品紛失トラブルに注意



空き家の遺品整理をする長島拓也さん(左)ら。残すべき品かどうか確認しながら片付けていく=9月24日

国民生活センターによると、全国の消費生活センターに寄せられた遺品整理サービスに関する相談件数は2021年度、前年度より20件多い171件。

例えば今年6月、50代女性からの相談で、業者に遺品整理を依頼した際に「母(故人)のアクセサリーを取つておくよう伝えてあつたのに、作業終了後に問い合わせたら『処分済み』と言われた」という事例。同センター相談情報部の浜名香香さんによると、

「まつわるトラブルが目立つといふ。浜名さんは、トラブルを防ぐために、(1)複数社から見積もりを取り、(2)見積もりの際、作業内容や追加料金の有無、料金を明確に出してもらう。(3)貴重品はあらかじめ分けて自分の手元に置くなど、の対策を勧めている。「今決めれば安くなる」などとせかされても、その場ですぐ契約せず、周囲に相談することが大切だ。

困った時は「消費者ホットライ

空き家の片付けや相続、処分について、悩みはありませんか? ご意見や記事への感想をお寄せください。氏名、連絡先を明記の上、郵送(〒380-8546 長野市南県町657信毎文化部「空き家20万戸時代」係)か、ファックス026-236-3194、メールkurashi@shinmai.co.jpまで。